

2022年度

女性研究者 シーズ発信会

日時

12月23日(金)

15:30 ▶ 17:30

会場

中央図書館3階 セミナー室

岡山大学では、ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 教員制を平成21年度より継続して推進し、優秀な若手女性研究者の確保と育成およびダイバーシティ推進を目指しています。

シーズ発信会では、WTT教員として活躍している2名と既にテニユアを取得した2名の女性研究者が最先端の研究成果を発表します。

【開会挨拶】 高橋 香代 理事 (企画・評価・総務担当)

----- 発表 -----

【閉会挨拶】 片岡 仁美 ダイバーシティ推進センター 教授
男女共同参画室長

15:35~

勝俣 沙智 助教 (特任)
環境生命科学学域 動物生理学

「絶食に起因する骨格筋タンパク質
分解反応が鶏肉品質に及ぼす影響」

16:00~

朴 志善 助教 (特任)
社会文化科学学域 法学

「日本の自由民主党の政策活動分析」

16:25~

江口 律子 講師
異分野基礎科学研究所
超伝導・機能材料研究コア

「新規有機材料を用いた高性能電界効果
トランジスタ」

16:50~

三谷 奈見季 准教授
資源植物科学研究所 植物ストレス学

「イネのケイ素集積とその応答」

主催：岡山大学 ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室



発表者氏名

勝俣 沙智 (かつまた さち)

所属：環境生命科学学域 動物生理学

職名：助教（特任） / 第XⅢ期 WTT 教員

[発表タイトル] 絶食に起因する骨格筋タンパク質分解反応が鶏肉品質に及ぼす影響

[要 旨]

わが国の食鳥処理場では、衛生管理のために、食鳥処理（と鳥）前に肉用鶏（ブロイラー）を絶食させる。と鳥前の絶食処理は、ブロイラーの骨格筋タンパク質分解反応を引き起こし、鶏肉の熟成および品質に影響を及ぼす可能性が高い。そこで、本研究の目的は、「と鳥前の絶食に起因する骨格筋タンパク質分解反応が鶏肉品質に及ぼす影響の解明」とした。具体的には、骨格筋タンパク質分解反応の指標として筋原線維タンパク質特異的な異化産物である血中N^ε-メチルヒスチジン濃度に着目し、N^ε-メチルヒスチジン濃度と鶏肉品質（呈味成分等）との関係を調査した。その結果、絶食時間を長くするとブロイラー生体内の骨格筋タンパク質分解反応が亢進し、熟成後の鶏肉中遊離グルタミン酸（食肉の主要なうま味成分）含量が増加することが明らかになった。したがって、絶食時間の調節により熟成中にうま味成分を高くできる可能性が示唆された。



発表者氏名

朴 志善 (PARK JI SUN / ぱく じそん)

所属：社会文化科学学域 法学

職名：助教（特任） / 第X期 WTT 教員

[発表タイトル] 日本の自由民主党の政策活動分析

[要 旨]

本研究の目的は、自民党政策会議の活動データを用いて、政党の政策活動に影響を及ぼす要因とそのメカニズムを明らかにすることである。具体的には、2009年から2020年までの自民党内の政策会議の活動を集め、分類し、選挙や議会制度、野党の地位、行政改革などの要因が自民党の政策活動に及ぼす効果を明らかにする。本研究は、自民党の政策会議の活動（時期、担当機関、議題、参加者など）を計量的な方法で分析し、全体像を明らかにすることで、従来、事例研究が中心となっていた自民党の政策決定過程に関する研究や、代議制民主主義における与党の政策活動に関する理論の発展に貢献する。



発表者氏名

江口 律子 (えぐち りつこ)

所属：異分野基礎科学研究所 超伝導・機能材料研究コア

職名：講師

[発表タイトル] 新規有機材料を用いた高性能電界効果トランジスタ

[要 旨]

有機電界効果トランジスタ(Field-effect transistor: FET)は、有機材料を用いることにより、軽量、フレキシブル、加工のしやすさなどの利点があり、電子ペーパーやバイオセンサーなど、次世代エレクトロニクス発展には欠かせない電子デバイスとなっている。高性能・高機能なデバイスを作り出すためには新規有機材料の探索も重要であり、本研究では新規有機分子を活性層とする FET を作製し、FET 特性から分子形状や結晶構造が伝導特性にどのように影響を与えるかを詳細に調べた。

新規芳香族有機化合物 dibenzo[n]phenacene (DB n P) ($n = 5, 6, 7$)の単結晶を用いて FET を作製し、トランジスタ性能の違いについて詳細に調べた結果、DB6P 分子を用いた FET の性能が一番優れていることがわかった。分子長が長くなると π 共役が拡張され、分子間の伝導に利得があると考えられる。DB n P においても $n = 5$ から 7 になるにつれてベンゼン環数が増加する(分子長が長くなる)ため、それに応じた伝導特性の違いが観測されると期待された。しかし、単結晶の結晶構造を調べたところ、分子形状の対称性が $n = 5, 7$ と $n = 6$ では異なるため結晶中の分子の湾曲状態が異なり、分子間のキャリア伝導に影響を及ぼして FET 特性に反映されていることが明らかとなった。



発表者氏名

三谷 奈見季 (みたに なみき)

所属：資源植物科学研究所 植物栄養学

職名：准教授

[発表タイトル] イネのケイ素蓄積とその応答

[要 旨]

ケイ素は‘植物の万能薬’とも呼ばれる有用元素であり、特にイネの安定多収にはケイ素が不可欠である。ケイ素による有益効果の大部分は地上部、特に葉の表面やケイ化機動細胞など一部の組織に特異的に蓄積することによって得られる。これまでの私たちの研究によってイネは土壌中のケイ素を根から積極的に吸収し、それを地上部において適切に分配・蓄積する仕組みを備えていること、また生育段階や環境条件に応じてその蓄積を緻密に制御する仕組みを発達させていることを明らかにしてきた。本発表では、まず新規に同定した地上部のケイ素蓄積に関わる輸送体遺伝子についてその特徴を説明し、この輸送体遺伝子の破壊が引き起こす深刻な生育障害からケイ素の適切な蓄積の重要性について考察する。さらに、イネが地上部のケイ素蓄積を感知し、輸送体の発現調節を介してケイ酸の吸収を制御する仕組みについても最新の知見を紹介したい。

アンケートにご協力ください!



本日はご参加いただき、ありがとうございます。
以下サイトからアンケートのご協力をお願いいたします。



<https://forms.gle/iuZoh89F2jgwqY5K8>

